

経営比較分析表（令和6年度決算）

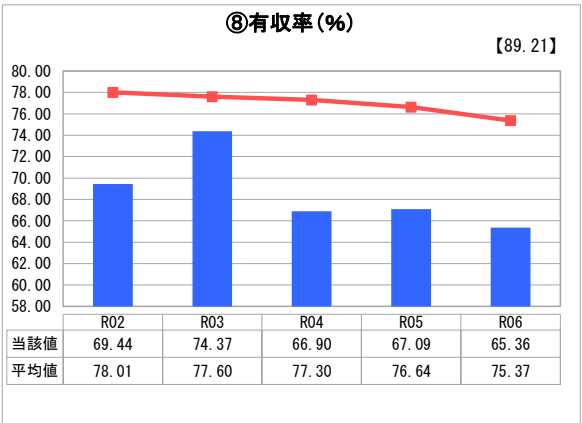
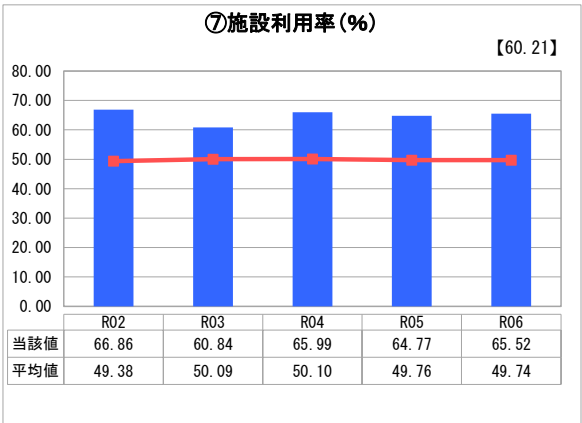
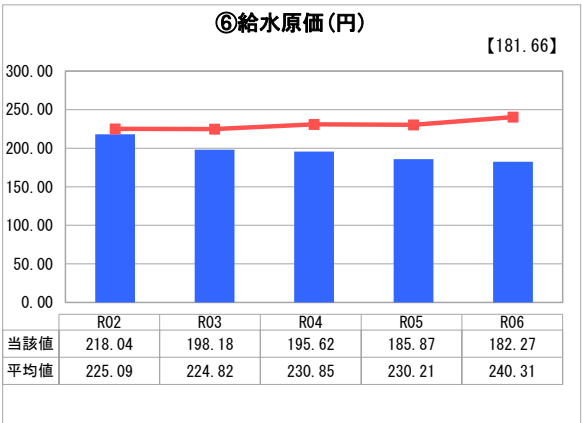
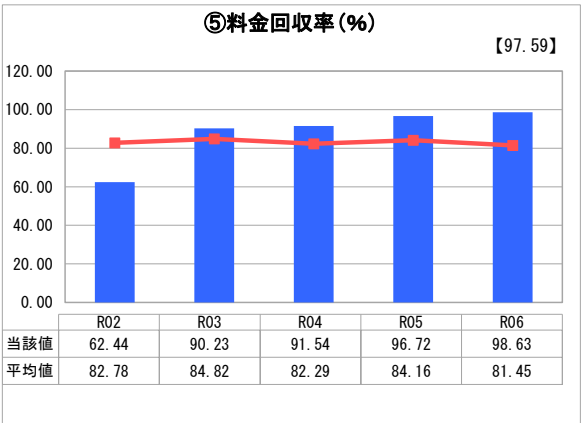
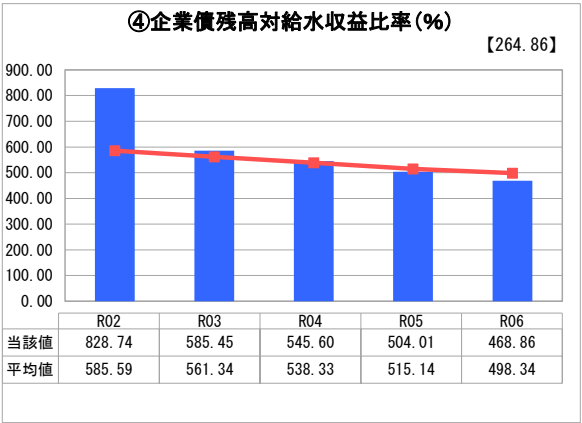
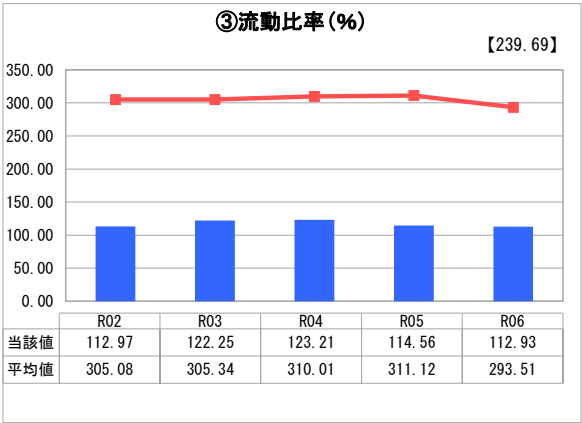
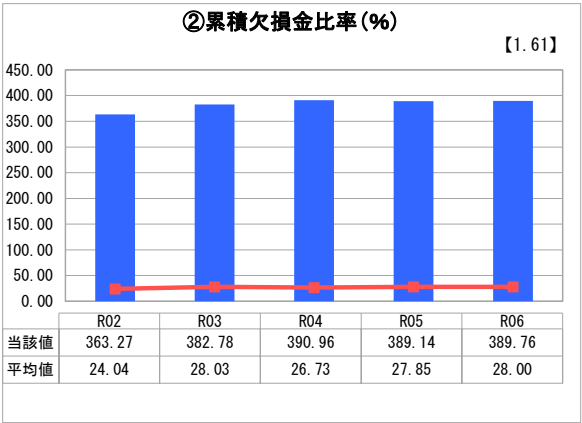
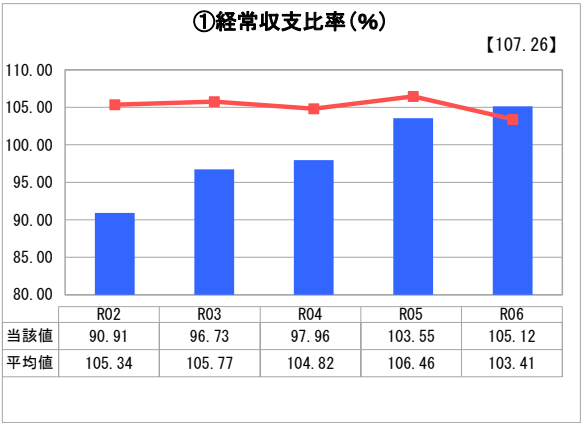
三重県 御浜町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	21.18	96.62	3,220	

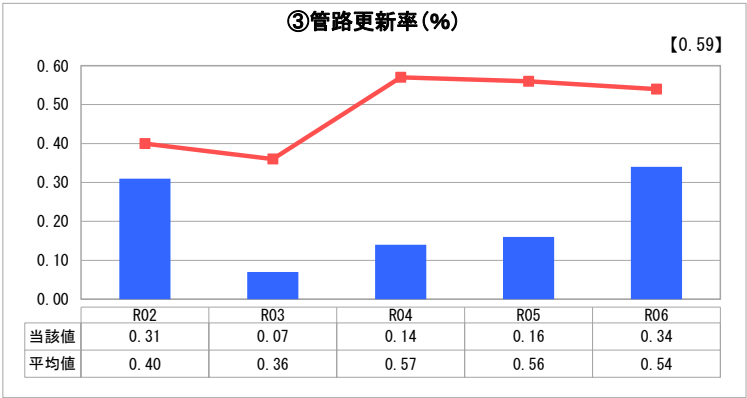
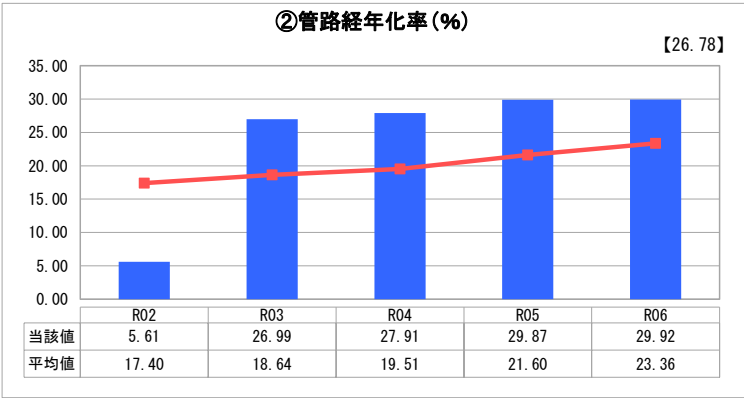
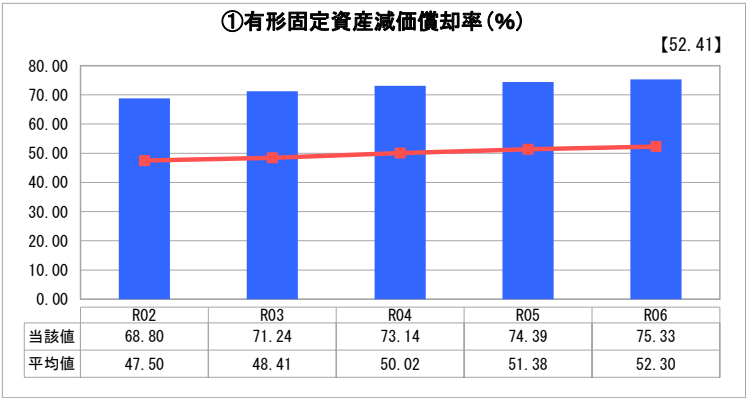
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,809	88.13	88.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,463	65.10	114.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、R02より料金値上げを行ったことにより、上昇傾向へ転じ、耐用年数を超えた固定資産が増加し、減価償却費が減少したこともあり、黒字化となった。

流動比率については、R02の料金値上げにより、一時的に資金収支が改善しているが、200%を大幅に下回っており、安定的な資金状況ではない。更に、今後、耐用年数を超過してくる施設が続出し更新が必要となるなか、その費用捻出のためにも、早期の料金改定が必要である。

企業債残高対給水収益比率は、高額に発行した年度の企業債の償還が終了したため、減少傾向となっている。

料金回収率については、新型コロナウイルス感染症対応による水道料金減免の影響で、R02は減少しているものの、R02に行った料金値上げにより、R03以降の料金回収率は大幅な上昇となっている。

有収率については、R03に大量に漏水している箇所を修繕し大幅な上昇となったが、R04以降は大幅に減少し、新たな配水管の漏水が発生していると思われる。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が高いことから、施設全体の老朽化が進んでいる。

管路経年化率については、下市木・志原地区で一体的に整備した配水管が、法定耐用年数（40年）を超過したことにより、R03より大幅増となっている。

今後、管路だけでなく浄水場等の設備が法定耐用年数を超過してくるなか、耐用年数や経過年数、実際の老朽度、重要度等を考慮し優先順位付けした施設等更新計画に基づき、資金と人員の観点から、事業量を平準化し更新を行っていく予定である。

全体総括

有形固定資産減価償却率が高いことから、施設全体の老朽化が進んでいる。

管路経年化率については、下市木・志原地区で一体的に整備した配水管が、法定耐用年数（40年）を超過したことにより、R03より大幅増となっている。

今後、管路だけでなく浄水場等の設備が法定耐用年数を超過してくるなか、耐用年数や経過年数、実際の老朽度、重要度等を考慮し優先順位付けした施設等更新計画に基づき、資金と人員の観点から、事業量を平準化し更新を行っていく予定である。更新費用の財源については、早期の料金改定による料金収入、活用可能な国庫補助金、企業債にて対応予定である。